

## 為替週間展望 = ドル円は上昇基調で推移か

[7月18日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		7月11日～7月15日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	136.02	139.39(14)	135.92(11)	138.89	+2.79
ユーロ・ドル	1.0181	1.0184(11)	0.9952(14)	1.0019	-0.0166

  

国内株・金利/米国株・金利		終値		前週末比	
		終値	前週末比	終値	前週末比
日経平均株価	26,788.47	+271.28	日本10年債利回り	0.236	-0.008
ダウ平均株価	30,630.17	-707.98	米10年債利回り	2.960	-0.121

<来週の主要経済統計等>

- 18日 NZ第2四半期消費者物価指数  
英7月ライトムーブ住宅価格  
米5月対米証券投資
- 19日 英6月雇用統計  
ユーロ圏6月消費者物価指数確報値  
米6月住宅着工・許可件数
- 20日 英6月消費者物価指数、英6月生産者物価指数、英6月小売物価指数  
独6月生産者物価指数  
ユーロ圏5月経常収支  
カナダ6月消費者物価指数、カナダ6月鉱工業製品価格  
米6月中古住宅販売件数
- 21日 NZ6月貿易収支  
日本6月貿易収支  
日銀金融政策決定会合(20～21日)金融政策発表  
黒田日銀総裁記者会見  
欧州中央銀行(ECB)政策金利  
ラガルドECB総裁記者会見  
米新規失業保険申請件数、米7月フィラデルフィア連銀景況指数  
米6月景気先行指数
- 22日 日本6月消費者物価指数  
英6月小売売上高  
独7月製造業PMI速報値、独7月非製造業PMI速報値  
ユーロ圏7月製造業PMI速報値、ユーロ圏7月非製造業PMI速報値  
英7月製造業PMI速報値、英7月非製造業PMI速報値  
カナダ5月小売売上高  
米7月製造業PMI速報値、米7月サービス業PMI速報値

【前回のレビュー】FRBによる利上げペース鈍化の可能性はあるものの、利上げは継続する可能性が高く、ドルの底堅い推移は続きそうだ。ドル円は歴史的な高値圏にあり、テクニカル面から売りに押される可能性もある中、ドル円は引き続き高値圏でのみ合いが続くとした。

【米消費者物価指数は予想から上振れ】

13日発表の6月の米消費者物価指数は前年比+9.1%となり、事前予想の+8.8%を上回り、1981年11月以来、約40年半ぶりの高い伸びとなった。コア指数は前年比+5.9%となり、事前予想の+5.7%を上回った。前月比は+1.3%、コアは+0.70%となり、いずれも前回値や予想を上回っており、ピークアウトの兆

しを確認できない状況となっている。

米消費者物価指数の発表までは、7月26～27日の米連邦公開市場委員会（FOMC）での0.75%の利上げがほぼ確実とみられていた。ところが、米消費者物価指数の上振れを受けて、CME FEDウォッチでは7月のFOMCでの1.00%の利上げ確率は82%まで上昇した。

ただ、タカ派で知られるFRBのウォラー理事が14日に、7月のFOMCでは0.75%利上げが基本路線で、1.00%の利上げは市場の期待がやや先走った感があると発言した。これを受けて、CME FEDウォッチでの1.00%の利上げ確率は42%前後まで低下している。

米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長は景気減速のリスクよりもインフレ抑制を重視する姿勢を示しており、インフレ退治のために7月のFOMCでの1.00%の利上げの可能性も依然として残る。物価上昇を抑制するために大幅な利上げを繰り返すことで、景気減速の可能性が高まりつつあると言える。景気減速による株安に伴うリスク回避の円買いが出てくる可能性はあるものの、ドル買いの勢いの方が強いとみられる。

21日の日銀金融政策決定会合の結果発表では、緩和的な金融政策の維持が見込まれる。歴史的な円安が進行する中、将来的な金融政策の変更に関するような示唆があるかどうか注目される。

米消費者物価指数の上振れを背景にドル買いの動きとなって、13日のNY市場でドル円は一時137.87円まで上昇した。14日にもドル高円安傾向が続いて、138円の節目も上抜き、139.39円前後まで上値を伸ばした。今後のFRBによる利上げ継続姿勢は継続されることから、ドル買いの流れは継続するとみられ、ドル円は上昇基調で推移するとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、136.50～141.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、18日に米5月対米証券投資、19日に米6月住宅着工・許可件数、20日に米6月中古住宅販売件数、21日に日銀金融政策決定会合（20～21日）金融政策発表、黒田日銀総裁記者会見、米新規失業保険申請件数、米7月フィラデルフィア連銀景況指数、米6月景気先行指数、22日に日本6月消費者物価指数、米7月製造業PMI速報値、米7月サービス業PMI速報値などがある。

#### 【ユーロドルはパリティ割れまで下落】

FRBによる利上げ観測の高まりを背景にドル高傾向が続いている。そうした中、ユーロドルはパリティ（1ユーロ＝1ドル）割れの水準まで下落してきた。また、ロシアはドイツに天然ガスを送る主要なパイプライン「ノルドストリーム」について、定期点検を理由に11日から供給を停止した。点検は今年21日までの予定としているものの、そこで本当に再開されるのかが警戒されている。エネルギー安全保障が脅かされるなどの警戒感もあり、ユーロ売りの動きにつながっている。

21日には欧州中央銀行（ECB）理事会が開催される。6月の理事会では資産購入プログラム（APP）は7月1日に終了して、7月から利上げに動く意向を示している。当初、7月は0.25%の利上げとみられていたが、さらに踏み込んだ動きを見せるとの見方も出ている。7月1日発表のユーロ圏消費者物価指数速報値は+8.6%となり、上昇傾向が続いている。13日にはカナダ中銀が1.00%の利上げに動くなど、FRB以外も利上げペースを速めており、インフレ高進を抑えるためにECBが積極利上げに動く可能性もある。

ユーロドルは1.06台から1.0000ドル割れまで下落が続いてきたことで、テクニカル的な売られすぎ感が台頭しつつある。ECBによる利上げはユーロドルの下落ペースを鈍化させそうだが、ユーロ圏は景気減速が警戒される上、米国と比べて利上げペースは緩やかとみられ、ユーロドルは軟調な動きが継続することとなりそうだ。このため、ユーロドルはパリティを通過点として、一段と下値を探る展開が見込まれる。ユーロドルの目先の予想レンジは、0.9700～1.0200ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、18日にNZ第2四半期消費者物価指数、19日に英6月雇用統計、ユーロ圏6月消費者物価指数確報値、20日に英6月消費者物価指数、英6月生産者物価指数、英6月小売物価指数、独6月生産者物価指数、ユーロ圏5月経常収支、カナダ6月消費者物価指数、カナダ6月鉱工業製品価格、21日にNZ6月貿易収支、欧州中央銀行（ECB）政策金利、ラガルドECB総裁記者会見、22日に英6月小売売上高、独7月製造業PMI速報値、独7月非製造業PMI速報値、ユーロ圏7月製造業PMI速報値、ユーロ圏7月非製造業PMI速報値、英7月製造業PMI速報値、英7月非製造業PMI速報値、カナダ5月小売売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。